

令和4年度 事務事業評価シート

事務事業名	消防水利計画・整備事業	事務事業コード	10205105	整理番号	29
(予算事業名)					
担当課名	消防本部警防課	担当係名	警防係	作成日	令和4年6月27日

I. 事務事業の概要

1	総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	1 安心・安全で活力を生み出すまちづくり		
	SDGs上の位置づけ	基本方針	2 市民の命と財産を守る安心・安全な環境をつくります		
		施策	5 消防・救急体制の充実		
		取組項目	消防体制の充実		
SDGs上の位置づけ	ゴール	(11) 住み続けられるまちづくりを			
	ターゲット	11.5			
2	事務事業の対象	<input checked="" type="checkbox"/> 不特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 不特定の企業・団体 <input type="checkbox"/> 特定の企業・団体 <input type="checkbox"/> その他 具体的に()			
3	事務事業の意図(ねらい)	新設消火栓を設置し、火災時の被災建物等の早期鎮圧、鎮火及び他への延焼を防止することを目的とする。	活動指標	指標名(単位)	当事業として新設された消火栓(基)
			算出法	年度内に、当事業として新設された消火栓の数	
4	事務事業の内容	水道部局と連携を密にし、都市事情、道路事情、その他市民の生活様態を踏まえ、消防活動に効果的かつ効率的な位置に消防水利(消火栓)を充実させ、市内で2,538基の消火栓を整備する。	成果指標	指標名(単位)	市内の消火栓(基)
				算出法	市内の消火栓の数
5	これまでの改革・改善の取組経緯	土地の利用や道路の状況、埋設されている水道管の状況などを考慮した上で、水道部局と調整を行い、消防活動に効果的かつ効率的な位置に消防水利(消火栓)を充実させるよう取り組んでいる。			

II. 事務事業の業績(指標と投入資源の推移)

指標・投入資源		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(目標・予算)	対前年比R03/R02	
1 事務事業指標	有効性						
	活動指標	4	4	4	4	100.0%	
	成果指標	2,239	2,252	2,261	2,265	100.4%	
効率性	コスト指標	コスト計/活動指標(円)	1,743,750	2,056,750	1,159,750	1,492,250	56.4%
2 投入資源	①投入	正職員	1.12	1.32	0.75	0.95	56.8%
		再任用職員					
		会計年度任用職員					
	②支出	人件費	6,975	8,227	4,639	5,969	56.4%
		内訳(千円)	事業費				
	③コスト計(=人件費+事業費)(千円)	6,975	8,227	4,639	5,969	56.4%	
	④事業費	特定財源内訳(千円)	国・府補助金				
地方債							
受益者負担等							
一般財源			6,975	8,227	4,639	5,969	56.4%
⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト(施設・設備・金利等)						

III. 事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 	<input checked="" type="radio"/> 1 事業を行う義務がある <input type="radio"/> 2 事業の必要性が高い <input type="radio"/> 3 事業の必要性が低い	不特定多数の市民が利用できる(受益を受ける)行政サービスで対価の徴収ができない事業
2 有効性(顧客の視点)の評価	<input checked="" type="radio"/> 1 非常に有効 <input type="radio"/> 2 効果があった <input type="radio"/> 3 あまり効果がなかった	消防活動に必要な消防水利(消火栓)を増加させることができた。
3 効率性(コストの視点)の評価	<input checked="" type="radio"/> 1 向上 <input type="radio"/> 2 横ばい <input type="radio"/> 3 低下	消防水利(消火栓)の効果的な配置について効率的に検討を進めることができた。
4 今後の方向性(総合評価)	<input checked="" type="radio"/> A 計画どおりに事業を進めることが適当 <input type="radio"/> B 事業の進め方の改善の検討 <input type="radio"/> C 事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 <input type="radio"/> D 事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見(事業の総括と課題に対する改革・改善策)	着実に消防水利(消火栓)の整備を進めることができています。 市内の土地の開発状況、道路事情、水道管の状況を考慮し、引き続き消防活動に効果的かつ効率的な位置に整備を進めていく必要がある。	

令和4年度 事務事業評価シート

事務事業名	消防施設等整備計画事業	事務事業コード	10205109	整理番号	33
(予算事業名)	消防資機材整備事業				
担当課名	消防本部警防課	担当係名	警防係	作成日	令和4年6月27日

I. 事務事業の概要

1	総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	1 安心・安全で活力を生み出すまちづくり	
	SDGs上の位置づけ	基本方針	2 市民の命と財産を守る安心・安全な環境をつくります	
		施策	5 消防・救急体制の充実	
		取組項目	消防体制の充実	
2	事務事業の対象	ゴール	(11) 住み続けられるまちづくりを	
		ターゲット	11.5	
3	事務事業の意図(ねらい)	<input checked="" type="checkbox"/> 不特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 不特定の企業・団体 <input type="checkbox"/> 特定の企業・団体 <input type="checkbox"/> その他	具体的な() 変化する都市構造や災害の容態に合わせた施設等を計画的に整備することで、安全かつ的確な警防活動を実施することが可能となり、市民の安心・安全に寄与するため。	活動指標 指標名(単位) 新規消防資機材の整備数(基) 算出法 当該年度における消防資機材の整備数
4	事務事業の内容	松原市の都市構造に合わせた設備等を備え、迅速に警防活動が実施され、市民の生命及び財産を保護できる体制を整える。	成果指標 指標名(単位) 新規消防資機材の整備達成割合(%) 算出法 当該年度に予定していた消防資機材を整備した割合	
5	これまでの改革・改善の取組経緯	毎年必要な施設について検討を行い、消防機関が火災や救助などの警防活動を実施するにあたり必要となる施設等を、変化する都市構造や災害の容態を考慮し計画的に整備する。		

II. 事務事業の業績(指標と投入資源の推移)

指標・投入資源		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (目標・予算)	対前年比 R03/R02	
1 事務事業指標	有効性						
	活動指標		1	4	2	400.0%	
	成果指標		100	100	100	100.0%	
効率性	コスト指標	コスト計/活動指標(円)	13,828,000	2,101,750	3,586,000	15.2%	
2 投入資源	①投入	正職員	1.79	0.95	0.75	53.1%	
		人員(人)					
		再任用職員 会計年度任用職員					
	②支出	人件費	0	11,156	5,876	4,713	52.7%
		内訳(千円)		2,672	2,531	2,459	94.7%
	③コスト計(=人件費+事業費)(千円)	0	13,828	8,407	7,172	60.8%	
	④事業費	特定財源内訳(千円)	国・府補助金	1,274	1,250	1,267	98.1%
地方債							
受益者負担等							
一般財源			0	12,554	7,157	5,905	57.0%
⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト(施設・設備・金利等)						

III. 事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 	<input type="radio"/> 1 事業を行う義務がある <input checked="" type="radio"/> 2 事業の必要性が高い <input type="radio"/> 3 事業の必要性が低い	不特定多数の市民が利用できる(受益を受ける)行政サービスで対価の徴収ができない事業
2 有効性 (顧客の視点)の評価	<input checked="" type="radio"/> 1 非常に有効 <input type="radio"/> 2 効果があった <input type="radio"/> 3 あまり効果がなかった	予定通り資機材を整備することができた。
3 効率性 (コストの視点)の評価	<input checked="" type="radio"/> 1 向上 <input type="radio"/> 2 横ばい <input type="radio"/> 3 低下	消防車両の整備や災害様態の変化を踏まえたうえで、資機材配備について効率的な検討を行うことで投入人員の削減を行った。
4 今後の方向性 (総合評価)	<input checked="" type="radio"/> A 計画どおりに事業を進めることが適当 <input checked="" type="radio"/> B 事業の進め方の改善の検討 <input type="radio"/> C 事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 <input type="radio"/> D 事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見 (事業の総括と課題に対する改革・改善策)	都市形態、災害様態の変化や、その他施設の整備状況も考慮し必要な資機材を更新する必要があり、長期的かつ有効に使用可能な製品を調査するとともに、現有資機材の耐用年数や点検時期等も視野に入れ無駄のない整備を行う必要がある。	